

紹介

本年2月岡山県農業改良クラブ実績発表大会が開催され、その印刷物を農業改良課の好意により一部戴きました。ここに畜産に関係あるものを選んで掲載することにいたしました。

いずれも実際農業という生産の場において努力してられる青年の姿を紹介しましょう。

昭和34年

私の酪農経営分析

英田郡美作町豊国

小林 頼 義

私達美作町豊国は姫新線林野駅の西北に位置する農家戸数450戸、第三紀層からなる瘠悪な耕地約500ヘクタールの水田による水稻作を主体としている1寒村であります。

一. 動機「第1表経営状況表」による

私は昭和30年農学校を卒業し、当時余りにも乏しく暗いみじめな生活を続けている農村の中で真剣にその問題にとり組んで、より良く明るい楽しい村作りに互いに努力と合っている四日クラブ員のその態度に農村を捨てかけていた私も「皆と共に村を作ろう」と決心し四日クラブに入会致しました。そして我が家の経営をより合理的により収入の増大を計るには我が家の経営に何を取り入れるべきかをクラブに入会早々、クラブ員や篤志指導者に相談し私の趣味等も考慮に入れて①草が豊富なこと②土地がやせているから堆肥を必要とすること③食生活の改善に向上していけること等を考え乳牛を導入し、水稻1本の経営に乳とそして糞による耕土培養により園芸をも取り入れた三角経営を立案し先ず乳牛の導入を両親に相談しましたところ、両親も私の自立性を認めてくれ翌31年9月にホ系の乳牛を導入することができました。

その後クラブ員と共に関係機関の指導を得ながら飼育いたしました。しかし当初の1ヶ年をふりかえってみますと飼料自給の計画が確立していなかったため試作的に終り、殆んどを購入飼料に依存し更に作業に不なれなために人一倍の労力を要し、しかも年間収入が意外にも少いことを感じ落胆したのであります。

そこで私は収支を左右するものは飼料の自給であり、飼料をいかによく自給するかが酪農経営を有利に

導く根本だと確信し、自給飼料費がどれ位の分野をしめているかを究明することを33年度のプロジェクトとすることにいたしました。

二. 計画

経営分析の第一条件は記録にありますから

①その日のことはその日に記帳する。②容量時間その他できるだけ正確に記入する。③1ヶ月の集計は翌月の5日までに必ず行う。④集計後反省点を見出し翌月の計画の参考にすることにし、なお飼料作物の作付は畑20アールを飼料圃として1号圃より5号圃まで第2図のように計画いたしました。

「第2表作付計画実施表」による。

特に1号圃は養分総量を主眼に、2号圃は5、6月のレンゲ等による。

蛋白過剰に対して馬鈴薯を、又冬期飼料としてカブ、レープの作付け等を計画、その他水田裏作として40アールにレンゲ、20アールに麦を作付け計画し、年間搾乳量32石を予定し、養分総量4,000kg、可消化粗蛋白450kgの必要量を算出し、給与の大部分をこの計画にしたがって自給飼料で賄い、不足分を購入飼料で補うべく計画致しました。

三. 実施

主眼とする記録は当初緊張して毎日記帳しましたが、月々の集計は青年活動を始め、研究会その他の会合が毎夜の如く続くため遅れがちとなり非常に苦心いたしました。特に農繁期を迎えると作業の忙しさに、記帳の複雑さと仕事の疲れに集計はおろか月々の記録さえもできず今更ながら記録を続けることに強固な忍耐の必要さを痛切に感じた。そこで記入のし易いように畜舎に黒板を作り、記録簿をはって、その日そ

岡山畜産便り1959.03

の日の作業を記録することにしました。

その結果日記はどうか続けることができましたが、日々の集計は2ヶ月3ヶ月とたまり記入はできたものの集計ができず6月には腰おれの形になりました。然しクラブ員より「集計を出し反省点を見出さなくては君の努力も水の泡に等しいではないか、何なら集計を手伝うぞ」とはげまされ田植が終った部落休みの数日を朝からソロバンを持ち、やっと1月より6月までの半ヶ年の集計ができました。

「第3表給与量及び代金表」による。

1月分は分娩直後だけに不十分ながらも干草と甘藷を与え、サイレージは2月に入ってから与えましたため4月まで充分与えることができました。昨年12月に収穫貯蔵したカブは4月初旬まで給与しました。

5月に入るとレンゲとえん麦だけが主体となってしまう単調でしかも片寄った給与になってしまいました。その後はあぜ草と玉蜀黍の早刈を行い6月のピンチを切り抜けました。そのため玉蜀黍の収量が計画より少くなりました。

「第4表乳量及び成分表」による。

その苦労の甲斐あって集計して見ますと6月までの半ヶ年間に

- ①購入飼料を多く与えていること
- ②自給飼料が定期的に単調でしかも多く与えたこと
- ③給与量が必要量より多すぎる
- ④管理時間を多く要した

したがって、給与飼料費が高いこと等が見出されたのであります。そこで対策として

- ①飼料計算を度々行いできるだけ必要量に近い数値で与えると共に
- ②自給飼料の計画的給与
- ③動力、カッターの購入
- ④10日分の濃厚飼料を配合する飼料配合箱を作り管理時間の節減をはかると共に
- ⑤乳質改善のため水槽の施設をする

一方、乳缶置場も改善しました。そして後半期の集計は雨の日或は、夜おそくなくても必ずその日その日に行うようにいたしました。7月から10月の4ヶ月間は玉蜀黍とあぜ草を主体とし10月には、いもづるを加えました。10月は分娩前でもありましたが、カブの間引きと乾草を与え分娩後の12月には、甘藷、麦、カブを与えました。特に10月の玉蜀黍は生育が遅れましたので肥料を多目に施したところよくでき霜のおりた後にも与えることができました。

四. 結果

「第5表、第6表収支決算表、飼料割合表」による。

1ヶ年間の集計を終えてみますと、購入飼料費は乳代の30%を占め、総収入に対しては24.7%にあたることが分かりました。一応収支の上では安定しているように考えられますが、成分的にみて全体に対する自給度は、養分総量で70.4%、可消化蛋白質では60%であり、平均65%を示しておりますが、今後更に75%までに引き上げるよう努力する一方、必要養分総量に対する自給飼料の占める割合が蛋白質の場合より少い等、今後研究する必要点が見出されました。

五. 反省

それには今後麦と甘藷の増産及び現在試作されておりますビートの導入、又未開地10アールの開墾を行いイタリアン、クローバー類、その他の牧草を播種し良質な乾草を確保すると共に水稻の早期栽培跡に夏播かんらんを栽培して現金収入をはかると共に残葉を冬期飼料にして自給度を高めたいと思います。

又レンゲの過剰分は乾草にし夏期には玉蜀黍にだけ依存せず、テオシント、スーダングラス、大葉ソルマメ等を作付けし、11月にはイタリアンの一番刈りを与えるよう計画したいと思っております。

六. 今後の方針

このような自給飼料を主体とした私の酪農経営分析の結果、今までは殆んど無計画に近い経営内容であったことがわかり、計画経営の難しさが今更ながら痛感されたのであります。又、経営分析を行うことがいかに明日への生産を高め得る貴重な仕事であるかを認識し、今後は方針として牧草地を広め、あぜ草の改良を行うと共に放牧地を設け、水稻の労働の山を早期栽培或いは機械化によって平均化し、堆厩肥の高度利用を考え、残葉の利用できるそさい園芸を取り入れ、乳牛を2頭ないし3頭にふやし、現在の水稻中心の経営を酪農に持ってゆき食生活の面でも自家消費を更にふやして澱粉主体を蛋白質の多い食生活に改善したいと思います。

第1表 私の経営状態

耕 地	水田	一毛作田	30アール
		二毛作田	90 "
	畑	普通畑	27 "

山林原野 350アール

採草地 50 "

岡山畜産便り1959.03

労働人員 3人

サイロ 1基

家畜	乳牛	1頭
	和牛	1〃
	緬羊	1〃
	ニワトリ	30羽

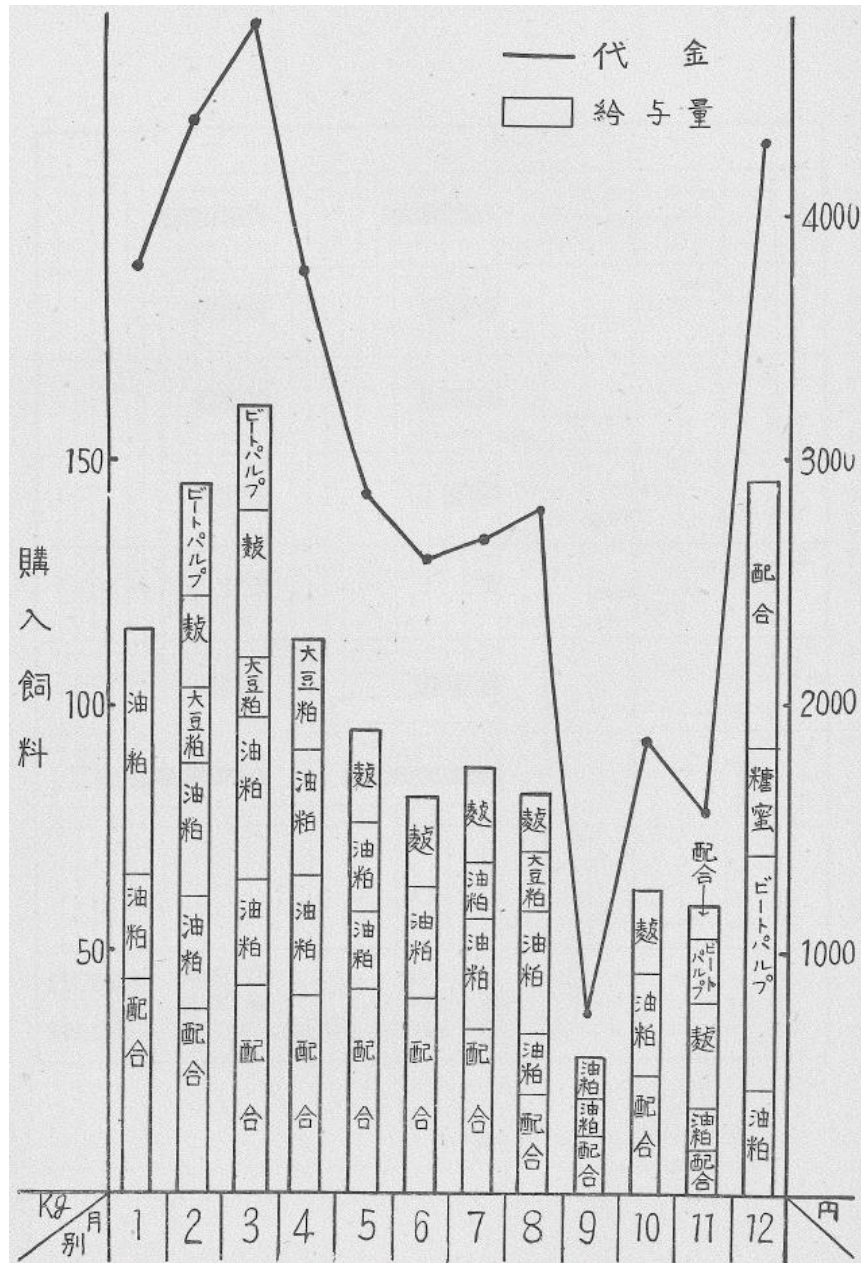
第2表 作付計画実施表

農機具	発動機	1
	脱穀機	1
	動力カッター	1

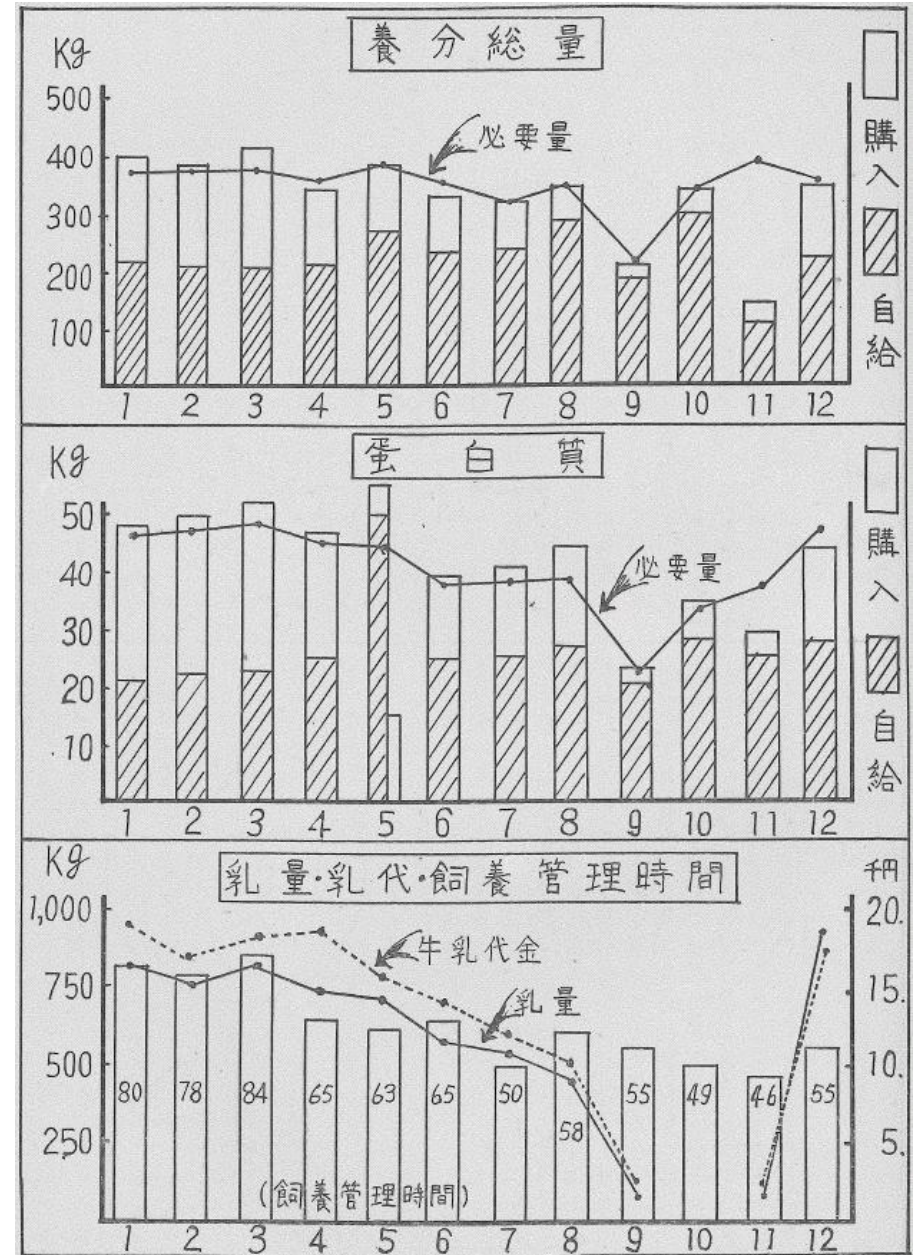
	1	3	5	7	9	10	計 画	実 施
一 号 圃	大豆							
二 〃	エンバク	パレイシヨ	トウモロコシ					
三 〃	エンバク	トウモロコシ	トウモロコシ	カブ				
四 〃	レーブ	トウモロコシ	甘蔗					
五 〃	レーブ	青刈大豆	イタリアン					
六 ・ 七 〃 (水田裏作)	レンゲ	麦						
そ の 他	エンシレージ	野草						
合 計							500kg 2,800kg 100kg 260kg 10kg	500kg 2,565.6kg 100kg 277.7kg 10kg

岡山畜産便り1959.03

第3表 月別給与量及代金



第4表 月別乳量及び給与成分量



岡山畜産便り1959.03

第5表 収支決算表

第6表 飼料給与割合表

